

Essay

Sapiarc.com

2009年1月21日 (2009-03)

オバマ大統領就任演説を見て、聴いて、読んで

私は、オバマ大統領の就任式の模様をNHKの実況中継で見ました。この放送の視聴率は5.8%だったそうです。NHKだけでなく、民放2局も同様の放送をしており、3つのチャンネルを合わせた視聴率は10%を少し超えたそうです。日本時間で午前2時ごろの深夜放送についての視聴率ですから、異常に高かったということになります。それほどに、オバマ氏の登場は日本でも注目されているということでしょう。

勤めていたころならば、私はこの放送を見なかったと思います。今では時間的にかなり自由なので、見たのですが、実はたまたま午前2時前に目が覚めたので、それなら見ようかという気になったまでのことでした。

21日の朝になってから、Washington Post 紙が配信した大統領就任演説のビデオを見て、かつ聴いてみました。また、その全文を英文で読みました。Asahi.com が掲載した全文の翻訳も読んでみました。朝日新聞は、その翻訳文を21日の夕刊に掲載しました。日経も似たことをしていたので、他の新聞も同じようなことをしているのだらうと思います。しかし、定職を持っている人は全文をきちんと読むほどの時間はないでしょう。忙しい人たちのために、私が、この演説について感じたことを簡単にお伝えします。

私は、この演説は今の世界での問題点をほとんど漏らさずに取り上げたことを高く

買っています。アメリカが現在抱えている深刻な問題、とくに経済の建直し、雇用の創出、医療システムの改善などについて述べているのはもちろんですが、テロと安全、国際関係、エネルギー、環境、人種、宗教などに関係する種々の問題への言及があります。ほとんどの日本人が共感できることとして、次のような発言もあります。『古くからの友好国とかつての敵対国とともに、核の脅威を減らし、地球温暖化の恐れを...』ここでの「かつての敵対国」とは日本を指しているのでしょうか。

NHKの「クローズアップ現代」でインタビューを受けた松尾式之氏（純心女子大学長、アメリカ社会の研究者）は、就任演説は地味だがバランスのよくとれたものだったと言っていました。これは私の感じたことと一致した意見だと思います。John Dickerson というアメリカの評論家は “a good speech but not a soaring one” と書いています。良い演説だったが、高揚感のあるものではなかったということだと思います。Dickerson氏は、オバマ氏は、大統領候補者として “Change” や “Yes, we can.” などのキャッチフレーズを作ったが、大統領になった今、もっと実務に力を入れることを明らかにするため、意図的にキャッチフレーズなどを使わなかったのだらうと分析していました。

しかし、国会議事堂からリンカーン記念堂までの4kmにわたるThe Mallを埋め尽くした、200万人にのぼる群集の中で、NHK

のインタビューを受けた人々の何人かは高揚感のあるものだったと言っていました。つまり、受止め方には幅があったということです。演説を聴いただけの人と全文を読んだ人との間に、感じ方に差が出ることはあり得ることでしょう。

19 分間の演説の英語について言えば、私はかなり格調の高いものだったと思います。聞いただけでは完全には理解できず、文章を読んでも 1 回ですんなり分かるとは言えない箇所がかなりありました。その代表的な例は、新聞などが見出しに使った「新たな責任の時代」について述べた箇所です。その原文と 21 日の朝日新聞夕刊に掲載された訳文をここに並べておきます。訳文は、文章を分割していますが、それでも分かりやすい日本語の文章とは言えないと思います。これを読まれる方はどう思われるでしょうか。

原文：What is required of us now is a new era of responsibility - a recognition, on the part of every American, that we have duties to ourselves, our nation, and the world, duties that we do not grudgingly accept but rather seize gladly, firm in the knowledge that there is nothing so satisfying to the spirit, so defining of our character, than giving our all to a difficult task.

訳文：今私たちに求められているのは、新たな責任の時代だ。それは、一人ひとりの米国人が、私たち自身や我が国、世界に対する責務があると認識することだ。その責務は嫌々ではなく、むしろ困難な任務にすべてをなげうつことほど心を満たし、私たち米国人を特徴づけるものはないという確信のもとに、喜んで引き受けるべきものだ。

ここで言わんとしていることは、政府がすべきことをするという前提のもとに、アメリカ人一人ひとりに個人の責任を自覚して、行動することを求めたものです。そ

れは良いとして、今後のアメリカはどうなるのでしょうか。選挙のときに活躍した 1200 万人とも言われるオバマ支持者たちはまた草の根運動を展開するのでしょうか。日本がアメリカから協力を求められる役割は何かなど、これから気にかかることが多くなりそうです。（おわり）